

## 2023 年 TICA 会員投票用紙への提案

### 第 1 号議案 手続規則第 6 条、第 7 条、第 8 条、第 11 条および第 19 条（最高執行責任者（COO） および 事業部長／事務局長）を改正する件

理由：

TICA 設立当初、会長は最高執行責任者でもあり、協会の日々の運営に積極的な役割を果たしてきた。TICA の規模と範囲が拡大するにつれ、これはもはや当てはまらなくなっている。

最高執行責任者（COO）が任命され、ビジネスマネジャー／エグゼクティブ・セクレタリーは現在理事会ではなく COO に報告するようになったため、すべての役割の責任を明確にするために Bylaws を更新する必要がある

利点	デメリット
<ul style="list-style-type: none"><li>TICA の現在の経営体制が正確に記述されていること。</li><li>この提案は、選出された代表者の協力的役割を明確に定義し、経営陣が交代した場合の TICA 運営の継続性と安定性を確保するものである。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>特になし</li></ul>

この提案は 2023 年春の会議で議論された。提案全文と規則委員会からのコメント：

<https://tica.org/phocadownload/2023%20TICA%20Spring%20Meeting%20Agenda.pdf> - ページ 13

### 提案 2 - 規定 123.1.8~123.1.10（名誉審査員の称号）の改正

理由

Distinguished Judge の名誉称号は、TICA Licensed Judge として 25 年以上の経験を持つ All Breed Licensed Judge に授与されます。しかし、Distinguished Judge の称号を保持するためには、少なくとも 2 年に一度、ジャッジ会議またはブリードセミナーを主宰するか、ジャッジングスクールまたはジェネティクスセミナーを開催しなければならないという規定があります。名誉称号(Judges of Merit)を保持するために、誰かが何らかの条件を満たさなければならないというのは非常に奇妙なことです。本提案はこの点を修正することを目的としており、Judges of Merit の規則にも同様の要件がある。

もう一つの問題は、継続的な教育要件が裁判官のプログラムにおける典型的な問題であり、規則がこの程度の具体性を立法化すべきではないということである。

本提案はこれらの点を修正・調整することを目的としている。

利点	デメリット
<ul style="list-style-type: none"><li>この提案では、名誉称号に関する規則を簡素化し、現在の取り組みに沿って、審判員ライセンスの再割り当てに関するすべての詳細を審判員プログラムに移管する。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>特になし</li></ul>

この提案は 2023 年年次総会で討議された。提案全文と規則委員会からのコメント：

[https://tica.org/2023 Annual Meeting Agenda.pdf](https://tica.org/2023%20Annual%20Meeting%20Agenda.pdf) - ページ 7

### 第 3 号議案 - 手続規則第 14 条の改正（絶対過半数）

#### 理由

候補者が 2 人以上いる場合、最多得票の候補者が絶対過半数（すなわち少なくとも 50%+1 票）を得られない可能性が非常に高い。

これは、当該人物が実際には過半数の会員から反対されていることを意味する。これは良いスタートとは言えず、責任者の権威を損ないかねない。第 1 ラウンドで最多得票を得た 2 人の候補者による第 2 ラウンドでは、絶対多数でリーダーが選出されることが保証される。これは欧米のほとんどの民主主義国家のケースであり、TICA でもそうであるべきだ。

電子投票なので時間的な問題もなく、新リーダーは 12 月 31 日までに選出される。また、2 回目の投票は TICA にとって新しいものではなく、設立当初から規則の一部となっていることを指摘しておきたい（114.4）。

利点	デメリット
<ul style="list-style-type: none"><li>• 会員は、投票権を持つ会員の大多数の好みを反映した候補者を選ぶ可能性が高くなる。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 第 2 ラウンドはより頻繁に行われ、選挙プロセスのコストを増加させる可能性がある。</li></ul>

この提案は 2023 年年次総会で討議された。提案全文と規則委員会からのコメント：  
[https://tica.org/2023 Annual Meeting Agenda.pdf](https://tica.org/2023%20Annual%20Meeting%20Agenda.pdf) - ページ 3

#### 提案 4 - 競技規則 29.3.4（代替フォーマットのジャッジ）の削除

#### 正当な理由

規則 29.3.4 は 2001 年に TICA 規則に追加され、同時にオルタナティブ・フォーマット・ショー（以前はアラスカン・フォーマットとして知られていた）が規則に追加された。当時、オルタナティブ・フォーマット・ショーは "安上がりな" ショーを行おうとしており、その拡散を防ぐための制限は適切であると思われました。それから 20 年以上が経ち、状況は異なっている。

例えば、ヨーロッパ地域ではこのルールは適用できない。ヨーロッパでは、すべての審査員が土曜日と日曜日の両方に審査を行う。出展者はこの状況に慣れており、両日とも異なる審査員がいるショーはほとんどない。従って、AM/PM/AM フォーマットで同じジャッジを使用できないのであれば、ヨーロッパで代替フォーマットのショーを開催する許可は無価値です。

この規則を撤廃しても、審査に招待されるジャッジの数が減るという点で、ジャッジの立場が『損なわれる』ことはない。そもそも 2 日間にわたって異なるジャッジを招待するのはコストがかかりすぎますし、'Back to Back' フォーマットの代わりに、オルタナティブ・フォーマットを行うという選択肢は、より出陳者本位のものです。

利点	デメリット
<ul style="list-style-type: none"><li>• クラブは、財政的な制約に見合うようなショーを開催する自由度が増す。</li><li>• 競技人口が少なく、クラブが多く審査員を招待する余裕がない地域では、低コストでより多くのリングを可能にする。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 同じ日に 2 回審査することを希望しない審査員もいるため、オルタナティブ・フォーマットのショーでクラブが利用できるジャッジの数が減ってしまいます。</li><li>• 出陳者にとって、ジャッジの選択肢が少なくなる</li></ul>

この提案は 2023 年年次総会で討議された。提案全文と規則委員会からのコメント：  
[https://tica.org/2023 Annual Meeting Agenda.pdf](https://tica.org/2023%20Annual%20Meeting%20Agenda.pdf) - ページ 9